

第 8 回加西市未来の学校構想検討委員会

日時：令和4年8月29日（月）

14時00分～15時48分

場所：加西市市民会館3F小ホール

1. 開会

2. 協議事項

○会長

本日も前回に続いて答申案の審議となります。前回と今回の2回で加西市未来の学校構想についての答申案について審議を行います。9月の検討委員会は市長への答申書を提出する日とするため、実質の審議は本日までということで予定しております。円滑な議事進行にご協力いただければ幸いです。

先ほど差し替えの説明がありましたお手元の答申書案について、本日最終確認する作業となります。この資料の作成に当たっては、前回にご発言いただいたご意見や、また会議後、各委員から送っていただいたコメントを反映して、本日の資料を作成しております。

それでは、事務局より答申案について、変更点を中心に説明をお願いします。

○事務局（教育総務課）

前回の資料から変更になった点につきましては、赤字で訂正しています。本日の差し替え分は、さらに修正が入っていますので、その部分は黄色で塗り込んでいます。前回、各委員からご指摘を頂き、修正あるいは漏れているところ、強調すべき点について修正を加えています。また、各委員からのコメントも引用しております。

前回まで箇条書きの文章でしたので、今回、接続詞で文章をつないでいます。スムーズにつなげられないところは、順番の入れ替えや、段落の移動を行っています。大きく変わったところを中心に説明します。

かがみの文章です。前回、ご指摘いただいた「学校、教職員、地域が単に協力者」ということではなく、「学校・家庭・地域が相互に連携・協働し」ということで、その辺りをもう少し強く出すよう訂正しています。

「はじめに」です。前回の会議でアンケートの記載があまりないということでしたので、「保護者や地域住民、教職員へのアンケートを行い、様々な立場の考えを反映させるべく協議を重ねて」の文章を入れました。次の段落も、「次世代型の人材育成がなぜ必要か、またそれがなぜSTEAM教育につながっていくのか、その説明がもう少しあればいい」という指摘がありましたので、少し長くなりましたが、教育のありたい姿につながるよう次世代型人材育成とSTEAM教育について説明を加えました。委員のコメントを引用し、「STEAM教育を据え、子どもたちが自発的に考え、行動し、大人たちがサポートしていく」としました。次の段落では、前回の会議で、2つの方向性を具体的に記載した方がい

いという指摘があり、「小学校は 11 校を存続」、「中学校は 2 校に統合」という語句を盛り込んでいます。

1 頁の第 1 部です。「教育のありたい姿」は前回、たくさんのご意見を頂いたところです。社会背景とか、現在の加西の子どもの現状と、どんな子どもを育てていきたいのか、そういったことを加えてはという意見がございました。「教育のありたい姿」の最初に加えています。また、「家庭や地域の協力を得るためにも、学校はどのような支援を求めているのかをしっかりと伝えることが必要」も、委員のコメントからいただきました。「次世代が希望をもって」、「多くの仲間」、「支え合い」というキーワードもいただいております。

「加西市の未来を創る」という表現は、他の市の答申ではなく、加西市独自のものを意識しながら、市民の一人一人が、当事者として関わっていく姿勢を前面に出すように文章を変えております。前回、「市民すべてがかかわる加西の教育」としていましたが、「かかわる」というだけでは物足りない部分がありましたので、「すべての人が学び・育みあう教育のまち」というフレーズを入れています、このフレーズは、第 3 期の教育振興基本計画の中で使っておりましたので、引用しております。

次に 2 頁です。こちらも社会背景と、次世代型の人材育成、3C、STEAM 教育といった関連をpushしながら、「個性」、「多様性」、「生涯にわたって学び続ける人間を育てる」というワード、コメントを引用しました。図 2 の絵も「すべての人が学び・育みあう教育のまち加西」ということで修正しました。

次に第 2 部の 6 頁です。小学校の表現は「小規模校を存続して課題を解消する」としていましたが、「小規模校の課題を解消しながら存続する」という方が説明としては正しいので、表現を変えております。

8 頁です。箇条書きを文章につなげる際に、整理を行い、素案に対して、「校区が歪（いびつ）である」という指摘があり、それが「東西案、南北案の提案」へつながり、「組み合わせの議論」になった流れを明記しました。

9 頁です。「魅力ある学校づくり」の部分強調しました。複合型の施設、療育や不登校にも対応できる機能を持つ学校を例示する表現にしました。また、北条中も統合中もともに、魅力が高まるべきであるという意見を記載しております。

「11 校存続と学園構想」では、学園構想の話に入る前に、小学校が存続となった理由を明記しておく必要があるため、その説明を加えています。学園構想の説明も、重複した説明を省き、合同授業や共同利用で集団をつくる、地域と共に特色ある授業を行う、ICT を活用するといった説明を整理しました。

10 頁の表 8 は△と○の表記でしたが、△だと、消極的なイメージになります。△、○は○、◎に訂正しました。

11 頁です。学園構想はいつからどのようにして始まるのかという質問が前回ありました。「令和 5 年から計画的に着手」、「児童の声や地域の意見を参考に、学校運営協議会とともに新しい授業の形を模索していく」という説明を加えています。「複式学級への対応」では、主語をはっきりさせるため、「地域協議会は」に修正しました。

第3部は12頁です。現状説明が多く、新たな学校づくりとの関係性があまり触れられていないという指摘がありましたので、「新しい学校づくりにおいても」から始まる文章を加え、地域の方のみならず子どもたちの声も聞いていくことを加えています。

第4部は15頁です。こちらアンケートに関する説明を加え、文言を変更しております。

今回は概要版もお配りしております。さらに要点を絞った形にしております。内容については重複しますので、説明は省きます。こちら併せて確認いただけたらと思います。事務局から今日の資料説明につきましては以上となります。

○会長

前回からの変更点を中心に説明いただきました。確認ですが、市長に手渡す答申書には、この答申の本編と、それから答申概要も渡しますか。アンケートの扱いも、前回、委員からの意見がありましたが、その辺はどのように考えていますか。

○事務局（教育総務課）

概要版は答申内容を簡略化したものなので、答申書だけを提出するつもりです。アンケートは、既に報告書として完成し、公開していますので、市長へ報告するものは、答申書のみになります。

○会長

アンケートは、今、公開されているものを適宜見ていただくということですね。本日は全体を通して各委員からご意見いただきたいと思います。全体を通してお気づきのところを発言いただければと思います。いかがでしょうか。

○A委員

7頁をお願いします。中学校の再編のところで、「①2校統合案」の上から5行目で、2校を統合した新しい中学校の建設場所が書いてあります。「加西インター周辺から飯盛交差点までの沿道周辺を新たに取得し、新校舎として整備することを強く望みます」と。

場所的には確かにこの辺りが一番妥当だと思いますが、この話は委員会で、この場所にしようという話が出ましたでしょうか。場所の選定については、あまり話をした覚えがないのですが。

○事務局（教育総務課）

素案段階では場所の明記はありませんでした。事務局でどの辺りを想定しているかについては、口頭ですが、説明の中でお話しさせていただいたと思います。もう1点よろしいですか。

○A委員

どうぞ。

○事務局（教育総務課）

実は、これから新しい場所を取得するときに、県とかに都市計画の申請をする際に、候補地の場所も、こういった検討委員会で話し合ったということも、この場所を選定する、あるいは計画するという根拠資料になっていくということもあります。

人様の土地なので、そんなことなかなか言えるものではないのですが、こういった場所を候補に挙げているというところを、答申に明記しておく必要があるということで、素案にはありませんでしたが、ここに入れさせていただくことにしました。

○A 委員

そういう思惑であえて書いて、事務局として明記されたということですね。分かりました。

○会長

土地に関しまして追加でどなたかありますでしょうか。では、それ以外の箇所についても結構です。

○A 委員

15 頁です。中学校の送迎バスに関する試案を書いております。私たちも大体分かっていますが、前回、B 委員からかなり重大な意見が出たと思います。それは、コロナで子どもたちが学校へ行けなくなるという非常事態のときに、1 か月間、23 日間バスを加西市内で運行したら1,800 万円の経費がかかったということでした。

B 委員の意見は、これはそのまま反映できるかは厳密には言えないが、相当な金額がかかるという意見だったと思います。23 日での1,800 万円ですから、単純に12 倍すると結構な金額になります。年間1 億、2 億というお金を用意しないといけないならば、もっと別の形で、学校や子どもたちの教材とかいろんなところに、あるいは人を雇うとかできるのではないかという意見だったと思います。

私も本当に一番大事な点を突かれたと思いました。それについてこの場で話をする時間はありませんが、この答申案の中には入れておくべきはないでしょうか。この後の地域協議会とか、市役所内部の部局でもお話しされるでしょう。これを読んだ市議員の方は市議会でもお話しされるでしょうから。相当な費用が発生するという事は、意見が出ている限りは明記されるべきではないかと思います。いかがでしょうか。

○会長

相当な金額がかかるバスの通学について、書いておいたほうが良いということですか。

○A 委員

そうです。子どものバス通学については、億を超えるコストがかかることが予想されるというぐらいの文章が必要ではないかと。1 か月の単価のデータですので、金額までは出ないと思いますが、コロナ対策で23 日間バスを運行したところ1,800 万円のコストが

かかったということを事例として挙げておくぐらいのことは必要ではないかと思われま

○会長

いかがでしょうか。事務局からお願いします。

○事務局（教育総務課）

前回もこの話がありました。同じ話になるかもしれませんが、15頁の表10の一番下に「バス運行にかかる財政負担」というところがあります。金額につきましては、今後いろいろシミュレーションをしていく必要があるかと思えます。統合中学を整備することになりますと、当然、既存の中学校の維持費、例えば光熱水費は数千万円かかっています。そういったものが片方のてんびんには乗ってきます。統合した場合、しなかった場合のシミュレーションをしながら金額をはじいたときに、バスの費用がどの程度の負担になるか考える必要がありますが、現段階においては、そこまでの試算が難しいと思えます。

ですので、この委員会の表現としまして「統合中学校の整備費とバス運行を含む維持管理費の総額は、現3中学校の維持費、施設改修費の総額を下回るよう想定することが必要」ということで、そこで一定の財政に関する目配り、指摘、意見といたしますか、そういった考えを入れさせていただいた形になっています。

○会長

いかがでしょうか。

○A委員

私は分かりました。意見を言われましたB委員いかがですか。

○B委員

前回にこれを申し上げた際には、財政的な議論がされていないという部分を申し上げました。それは前回、かがみ文のところで、財政負担を含めた理解を求めてはる文章があったので、それを言わせていただきました。今回、それはなくなっています。文章なくなっていますが、ここでは財政的な議論は基本的にしていないので、そういうことも含めて言うと、次の8頁の「各案の比較」の表があります。表6の「整備費用 コスト」の部分は、外してもらえればどうかと思っています。

整備の仕方によっても違うだろうし、バスのコストの論議もしていないのであれば、東西案にすれば新築校と増築が必要かも分からないということで、多分括弧書きにしてあると思いますが、このようなコスト欄もあわせて外していただければどうかと思っています。

○会長

15頁のバス運行に関わる負担のあたりの記述については、今書かれているとおりということで、8頁の整備費用のところを修正してはどうかというご意見でした。新築1校が素案、東西、南北にすると、それに北条中学校の増築が加わるので素案に比べると整備費用が高いという意味で書かれているかと思えます。これぐらいであれば問題ないという気

がしますが、いかがですか。

OB 委員

そこに入れるのであれば、バスも入れたらどうかと思うだけで、コストを議論するのであれば、東西案にしても、多分生徒数を見れば今の施設に十分吸収できるような数だと思うので、増築が本当に必要かどうかというのは括弧書きになっているとおりです。括弧書きをもって、高いとかいうのはどうなのかと思うので、もうコストを議論していないのだから外したらどうかと思いました。

○会長

事務局をお願いします。

○事務局（教育総務課）

コストは校舎だけじゃなくて、例えば、その東西案、南北案の場合は、北条中学校も統合する形になりますので、北条中の方でもバスを走らせることがあり得ます。そういったことをも含めての話になってきます。確かに校舎の工夫、バスの工夫の仕方はあると思います。本当は数字で説明するのが一番いいですが、前提条件がはっきりしていませんので、その辺りはなかなか数字で説明できないところは申し訳ありません。校舎だけではなく、バスも考慮したこともお含みいただけたらと思います。

OC 委員

今のバス代の話ですが、私は「統合中学校に通う生徒全員をバスの利用対象者とする」っていうこの1行がすごくいいと思っています。加東市では、今、小中一貫の学園構想で3つにまとめていますが、ご存じのとおり、バス代がすごくかかります。今、社の学園構想の話をしていますが、中心から放射線状にバスを出さないといけない形になると、コースがたくさん要る。つまり、バスがたくさん要るということになり、そうすると「近くの者は歩いて来い」という話になってきます。

近く者って、どうやって想定したかということ、コンパスをポンと置いて、ぐるっと回して「この円の中の人歩いてきなさい」と。私の家はちょうどラインの上で、5メートル隣の家の子どもさんは歩かないといけない。小学生がですよ。実際歩いてみると70分も80分もかかります。それを聞いたとき、全員バスっていうので「ああ、加西ってすばらしい」と思いました。

ところが、そのバスの「運行にかかる財政負担」のこの文言も、行政的な矛盾ってあると思いますが、総額を下回るよう想定することが必要となったときに考えられることは、ルート、コースを減らすということですよ。それは止まるところを減らす。つまり、またコンパスを置いて、ぐるっと回すようなことになるのではないかと、今聞いていて思いました。

そうすると、いろんなところから「こんなのあかんやろ」って、署名も上がっているような状況になります。地域の子どもたちに分断が入るとのことと、もちろん体力的な問

題があって「無理だろう」ということも出てくるので、お願いとしてこの一番上の「生徒全員をバスの利用対象者と」というのは、消さないでほしいと思います。それだけよろしくお願いします。

○会長

これは案ということですが、この委員会として、これは大事にしたいということで提案させていただきます。詳細については、表 10 にあるとおり、別途、この内容や課題にとどめさせてもらえればと思います。ほかいかがでしょうか。

○OD 委員

送迎バスの話で、この答案については今の文章で、私もいいと思いますが、今後いろんなところで協議される中で、私を感じたことは、前回に総務部長が金銭面のことをおっしゃられて、私たちこっちから見ていて市政の横のつながりはどうなのかなっていうのをすごく感じました。

A 委員がコミュニティバスの活用について意見を言われていたと思います。私もすごく賛成で、私もこの前、コミュニティバスの話し合いに行かせてもらいました。今後 10 年先になると、今、元気で車に乗れる方が乗れなくなるという問題があり、市政でこういう問題がある中で、横のつながりってというのは、今後の話し合いをすれば、そういった経費のことも、子どもだけにこれだけのお金使っているという見方よりも、加西全体として、そういう交通手段としてバスの活用によって、子どもだけでなく、いろんな方が利用できるという方向で考えていけば、地域のコミュニティバスも一緒に考えていただけるといいなと前回の話の中で感じました。

○会長

文言自体はこのままにしても、あえて言えば 15 頁のリード文の最後のところで「詳細な運行内容や課題について」とありますが、その中にコミュニティバスのことなんかも関連して議論してもらえればという含みを持たせているというように理解していただければと思います。

○OE 委員

前回、駅前再開発の話をしました。用地の問題で、道路整備が遅れた経緯がありました。

これからどのような形で用地の確保を進めていくかは分かりませんが、用地確保は非常に難しいと思います。確保できなかつたら加西中で、ということが書かれています。

統合するならば、やはり新しいところで新しい学校だと思います。いろんなところを修理して建て替えるというのは、ちょっといかがなものかなと思います。

インターから大体の場所が書いていますが、北条高校があったり、播磨農高もあります。将来的な形は分かりませんが、あの辺全体が学園的な雰囲気の出るところになってもいいなと思います。国有地や県有地があれば、買収しやすいだろうと思います。この委員会では一応方向づけができたけれども、これから進めるのが大変だと思います。

バスがどこから出て、どこへ行くか、どう決めるとか、今出ている案では、私も議会に

おりましたので、なかなか議会の中では反対はしづらいと思います。ただ、来年からどうなるのか、ここが一番の議論が出てくるのではと思います。

これからの進め方について、学校運営協議会の話が出てました。私もある学校でそういう任務をしていました。形式的にやって、時間をこなすような会議でした。今は真剣にやっているとありますが、しっかりと議論できる委員会にすべきと思います。役をしても1年で交代するところ、PTAは分かりませんが、区長にしても2年ぐらいで代わるところがあります。その辺はしっかりした委員の選定をして進めていくこと。1年で代わるようなところでは、しっかりしたことが決まりにくいと思います。

用地買収はしっかりやってもらわないといけないと思います。もう一回言います、いろんなところを修繕しながらやるようでは、期待が外れるという感じで見ております。

○会長

用地の確保で、7頁の文面はこのままでいいとしても、「この強く望みます」ということをぜひ実現してほしいという意見でした。あと、用地の代案が問題になると代案というのはどういう意味でしょうか。

○OE委員

4年後、加西中が大規模改修の対象になってくる。それがタイムリミットですね。それを踏まえながら、片方で用地を買収する。これができなかつたら、こっちでやると。二本立ての文章です。この二本立ての案よりも、新しい学校をつくっていくという方が、期待感があるということです。

○会長

この辺の書き振りについて、事務局としてはいかがですかね。

○事務局（教育総務課）

せっかく統合するのであれば、新たな中学校を整備していきたいので、それを優先します。ただ、やはり早期に確保しないといけないという状況になった場合に、なかなかまだ用地も決まっておりません。新たな場所での整備を優先しますが、そうでない場合も想定しておかないといけないことも含めて、両方書きにしております。優先する第一は、新たな場所に建てたいというもので、このような書き方になっています。

○会長

この「強く望みます」のところで1回改行するとかして、強調していることが伝わるような工夫をしてもいいかなと思いました。検討いただければと思います。

○事務局（教育総務課）

分かりました。あと、財源の話ですが、委員会の答申を市長に提出します。市長は市全体を司るわけですから、財政も都市計画も土地利用も、教育委員会以外のところも含めて総合的に判断をしていきます。答申が尊重される形で進むとすれば、そのときは市長部局

と教育委員会が両方で、財政面も含めて侃々諤々の議論をして、教育委員会は教育の面を大事にしていきたいと思ひますし、新たな土地を取得するということでこちらも要望していきたく思っております。そのためにもこの委員会でこういう方向で強く望んでいことをメッセージとして投げていただければ、私たちも心強いと考へております。

○会長

もう1件、E委員から学校運営協議会が、従来今やっている学校評議員制度とはまた違った実質的な議論の場になるようなことも考へてほしいという要望だったかと思ひます。

○F委員

中学校の再編ですが、7頁の②の「2校案の根拠」で、2行目に中学校の生徒数では令和3年度で959人と記載されております。一方、学級数が少なくなることについては、3頁。中学校でいいますと、平成23年度40学級から令和3年度28学級に減少するという実績です。この委員会では、生徒数の減少について、かなり先までの資料を事務局から出していただいております。

この答申案の中に、将来の中学校の生徒数が、これだけ減少する、将来も減少する予定ですと。だから、制度はなかなかいいものにならないかと思ひますが、というのは記載されていないように思ひます。令和3年度の現状の生徒数はありますが、将来も増えることは想定しにくいと。なので、ここで中学校の統合が必要ですよというように。この答申案は市民の方にも公表されますよね。現状の令和3年度の生徒数が出ていますが、将来、例えば5年、10年後の生徒数は、転入転出はあるかと思ひますが、ある程度のことは数字が出ると思ひますが、その辺はどうでしょうか。

○会長

事務局どうぞ。

○事務局（教育総務課）

今までの資料には出しており、答申案に入れたらどうかということだと思ひますが、確かに推定の数字を示す方が大事だと思ひますので、その表はどこかに入れたいと感じました。

○会長

部長、どうぞ。

○教育部長

最後のところででもいいと思ひていましたが、新しい中学校をどういった形で、用地の選定も含めての部分ですが、これは先ほどの説明どおり、首長部局と綿密に連携しながらやっていくことに何ら変わりはありません。現在の考へでは、その新学校を建設していくためのベース検討会みたいなものを設置する必要があると考へております。それは行政部局としての組織ということではなくて、地域とともに今後の新しい中学校はどういう姿にし

ていくのかっていう具体を詰めていく場と考えています。

この委員会ではアウトラインを決めていただきました。その詳細の部分については、地域住民あるいは実際の保護者、生徒と一緒に議論していきながら、詳細を詰めたいと考えていますので、その部分を少し補足できたらということでもあります。

○会長

G 委員お願いします。

○OG 委員

今、令和4年度で、中学校ができるのが令和8年度ですね。今から用地を選定してエリアを決める、用地買収、それからどんな学校をつくっていくかの話合い。ちょっと僕は時間が足りないと思いますが、いかがでしょうか。用地買収から学校構想までの会議、4年では短いような気がします。

○教育部長

期間についてはおっしゃるとおりで、非常に厳しいという認識でこちらもあります。素案の段階では一つの目安、目標ということで、年限は設けるべきと考えましたので、令和8年度を設定しました。その8年度の背景には、先ほどもありましたが、既存中学校の大規模改修の時期が入ってくるということも根拠の一つです。ただ、現状では厳しいということは、当然に我々も認識しておりますが、目指すべき年限は8年度ということで進めてまいりたい。それが結果、1年遅れということはないとは言えないですが、あまり安全策というか、その辺を曖昧にするよりはしっかりと目標年限は示した上で、この答申を出したらいいと考えているのが事務局の考えです。ご指摘のところはこちらも十分理解しております。

○会長

よろしいでしょうか。

○OG 委員

大変だと思いますが。

○教育長

ご協力よろしく申し上げます。

○OG 委員

3つの中学校を統廃合することによって、残った廃校になる中学校はその後どうなるのかっていう方針が書かれていないのですが、どういう形で考えられているのかご意見を頂ければと思います。

○会長

前回は議論になったところですが、今回も答申案のところは触れられてはいないですね。

○教育部長

加西市の小中学校を今後どうしていくのかという大枠は、この委員会で議論していただいた上で、その方向性を見定めていただきたいという主眼でございます。

これに伴う廃校というものが今回の案でいけば、3校出てくるということなので、それについては別途、教育委員会だけではなく市長部局も含めた議論が必要になってくるものと考えています。ただ、教育委員会としましては、まずは教育施設としての利活用を第一に考えたいと思っておりますが、既存施設の有効利用ということで、市長部局と共に今後検討していきたいという考えです。この場においては、今お示ししておりますような将来像の部分で議論をしていただいたということで、こういう答申案になっております。

○会長

また別途検討いただくということで、この答申案にはその部分は盛り込まないということでご理解いただければと思います。ほかいかがでしょうか。H委員お願いします。

○H委員

答申につきましては、前回委員の皆さんからの様々な意見をしっかりと反映していただき、監修修正等されていますので、これでいいという意見です。

あと、毎回お話ししていますが、中学校長会においても協議しています。委員会の中で出た不安に思われていること、ご心配されていることについて、校長会で話し合いをしながら計画、準備をしていきたいと考えております。新しくできる中学校だけではなく、市内の中学校教育の在り方について、校長会の中でもしっかりと話し合いを進めながら準備していきたいと思っております。

その話し合った内容等の進捗状況を、どこかで報告をできる場があったらいいなと思っておりましたが、先ほどの教育部長から新しい学校について何らかの委員会ができるみたいな話も出ていましたので、その中でも中学校長会として考えていることも、そこでお話しさせてもらいながら、また相談もしながら進めていけたらと思います。

○会長

ぜひ、そうやって校長会とも連絡調整しながら、議論を先に進めていければと思います。ほかいかがでしょうか。I委員お願いします。

○I委員

H委員から話があったように、小学校も大方この答申案でよく考えていただいたと思います。ただ、今回、学園構想の表を○と◎に変えられました。マイナス思考よりもプラス思考にということで変えられたかもしれませんが、△から○にという話は、前々回でしたか。

改めて見たときに、すぐにできそうな○、本当に効果が望まれてできる◎に見えてしまいます。学園構想を言ったときに、難しい部分の方が多いということで、最初に意

見を言ったのですが、表の視覚的効果がすごくあると思うのと、この○、◎に抵抗を感じてしまいました。校長会に持っていくときに「これはすぐできる」「せんとあかん」という感じになってくると、もともとは負担を軽減するためにこの表を作成し、「これがやりやすいですよ、これは難しいですよ」という話だったのが、みんなできそうな感じになってしまって、誤解を与えるのではないかと、この表を見て感じました

それからもう一つ、改めて今日いろんな箇所で、前回頂いた修正した部分と変わっているとあるところがあると思いながら見ていました。その中で前回とは変わっていないけれども、「複式学級への対応」というところで、1段落目の上から5行目になります。「『小学校の統合を望む場合は、統合について協議を始める』としており、そのプロセスを明示しておく必要がある」としたときに、そのプロセスっていうのは、この次の段階の下の段落のことを示しているのでしょうか。もう一度、そここのところを確認したいと思います。

○会長

2点です。この○、◎、これは前々回もそういう意見もあって、今回それを反映させる形で修正になっています。10頁の赤字の一番上の段落のところでも小規模校と同列に、適正な規模にある学校において、「一律に学園構想を促すのは、かえって児童や教職員の負担だけが残るといった意見も委員から出されました」というこの文章は残るといふか、明記した上で、可能な範囲でそれぞれの学園の実情に応じてできることはやるという、そういうニュアンスで△が○になったという理解をしていたんですけども。事務局からこの辺りで何か補足はありますか。

○事務局（学校教育課）

表のところで、◎が○に変わっているところ、実は事務局でもこの修正についてはかなり議論というのか、どう反映すべきか話し合いを持って、最終こちらの形にさせていただいております。I委員がおっしゃるように、また最初の方で、G委員が小小連携こそが大変だとかかなりおっしゃっていただいたこともあります。必ずしもこの◎だから「今すぐできる、やりなさい」というような強制的なものでは決してございません。教育活動の事例ということ、それからあくまでもお示しすることで学園構想の具体的なイメージが湧くということを念頭に置きました。

さらに、11頁の上、今、会長からもありましたが、赤字と黄色字のところを補記しました。「学園ごとに教職員が議論し、児童の声や地域の意見を参考にして学校運営協議会とともに新しい授業の形を模索していく」、つまりは事例をこう示しておりますが、それぞれの学園で質や状況は異なるからこそ、考えていただくと。これをやっていただくということよりも、「一例にしながら、どういうことができるだろうか」、あるいは大規模学校では「こちらの方は難しいな。だけど、こういうことならできる」。ここにはない、もう少し未来志向で考えたときに、さらに新しい知恵が出てくるだろうという今の時点でのイメージと考えていただき、最後の「期待したい」と考えているのが事務局の思いでございます。

それから、プロセスの明示ということがありました。おっしゃるように次の段落の「複式学級が見込まれる2年前から『(仮称) 地域協議会』を立ち上げる」と書いておりますの

で、そちらはプロセスを明示するということで認識いただければと思います。

〇I委員

そのプロセスについて、「地域協議会は、保護者や地域住民に対し問題提起を行った上で、今後の方針や対策・具体的な計画などについて協議を開始します」と。この地域協議会というのは、複式学級を代表する学校側だけの協議会を指しているのか。その場合、市全体の協議会の方にもつなげて検討を行っていくのか、その辺りはどのように考えられているのか、それも聞き、もしも分かるようであればプロセスとして入れていただけるとありがたいと思います。

〇事務局（学校教育課）

こちらにつきましても、地域協議会の事務局は教育委員会事務局が持つということで明示させていただいております。ですので、その場の開き方というのは、といいながらも来年度からが見込まれますので、この後10月以降には考えていかないといけないと思いますが、事務局から声を拾いながら、問題提起の議題等を出すということも一つですし、もちろん地域の方々から、あるいは学校から出していただくということもありますが、設定、設置につきましては事務局が担わせていただきます。

〇会長

今のI委員の質問で、基本は複式学級が見込まれる小学校を単位として地域協議会を設置するということですね。

〇I委員

それであれば、その学校だけの話になってしまって、統合、統廃合っていうのが多分保護者から出てきた場合は、1校で考えられる問題ではないと。それをどのようにして、全体に持っていけるのかというのは、そこも今後の方針や対策、具体的な計画の中について、協議を開始しますっていうところに含まれているということで、理解してよろしいでしょうか。

〇会長

事務局お願いします。

〇事務局（学校教育課）

もちろん想定されるものは、I委員の言われるように統廃合ということはすごく頭の中でイメージが膨らむかもしれないんですが、それだけではなくて、まずは複式化するその学校の教育内容の充実を図ること、それが一番になってまいりますので、そのプロセスの途中で統廃合ということがあれば、また事務局から、何らか複数の学校にアプローチするようなことであれば、呼びかけをさせていただくということは、段階としてあると思われると思います。まずは単独の対象となる学校ということで考えていただけたらありがたいと思います。

○会長

J 委員、いかがでしょうか。

○J 委員

私のほうからは、一つ、答申の内容について、それからもう一つはこのタイミングでいいのか分からないんですけど、この先の進め方についても少しお伺いしたいと思います。

まず、答申の内容についてです。前回の会議で出していただいた答申の案よりかなりその文脈が補われていて、当初からこの会議で話し合われてきたことが補強されて、読みやすく理解されやすくなったのではないかなと思っております。

それで、個別、具体的内容のところですが、1点、第3部「地域との連携による学校づくり」のところ、先ほどE委員からのご発言にあったように、コミュニティ・スクールの制度の導入をしても、それがうまく生かされるかどうか、全国どの地域においても大事なところになっていると思います。最後の一文の「新しい学校づくりにおいても、学校と地域の連携と協働が基盤となるため、コミュニティ・スクールの導入」のところを「導入」だけに限らず「導入と運営」とした方が、単にその制度の導入が目的にならずに、導入後の運営、運用も含めて活性化することになるので、その方がよりよくなると思いました。

「新しい学校づくり」というのがどこまでを指すのかは、改めて見ると「どこまでなのかな」というのがありまして、もしかしたら今回、学園をつくっていくところも答申に盛り込まれているところで、「新しい学校づくり、学園づくりにおいても」という出だしでもいいと思いました。学園構想がありつつ、各学校の基盤は学校会運営協議会を活用しながら学校と地域が協働してつくっていくと整理できれば、よりよいと思った次第です。それが答申内容についてでした。

もう1点、もしかしたらまだ答申の議論が閉じていないので、早過ぎたら恐縮ですが、今このように皆さんと議論をしてつくってきた答申、今回で実質、議論が最後になると私も承知しています。ここまで来たものを市長に答申することだと思いますが、先ほどから話が出ているように、どう具体化していくとか、市民の手によってより内容を良くしていくか、この先の展望もこの会議が終わるまでには共有できたらうれしいと思います。

○会長

答申の中の文言、12 頁の箇所については今、提案があったような形で2か所は、また後で加筆を検討していただければと思います。それから、答申提出後の展望については、一旦、答申の中身の議論が終わった後で、改めて事務局から説明いただければと思います。では、A 委員お願いします。

○OA 委員

第1部のSTEAM教育のところ、この答申案の「はじめに」のところ、ここで私にはよく分からないところがありまして、「STEAM教育」という言葉が2回出てきます。その中で「STEAM教育を通じて人間力を育むことが重要」とありますが、これは分かって

いるようで分からないことだなと思ひまして、「人間力」の定義、「人間力」って何かということ定義しないと、このような手段が見えてこないと思ひます。

加西市のこれからの教育の柱が STEAM 教育だということは、前から何遍も聞かされておひまして、私もそう思ふのですが、残念ながら今回のこの委員会ではそこまでの時間がなかった。ほとんど話す時間がなかったので、STEAM 教育というものがどういふものなのかということ、私達にも見えないし、ましてやこの後、一般市民の方に、話をしてもらなかなかな分からないということだと思ひます。この人間力を育む教育であるとか、それから次の 2 頁にあります「次世代の育成」と言われている。1 行目の「複雑化・多様化した現代社会には正解のない問題が待ち受けています」という言葉。では、正解のない問題とは何か。その辺りの定義をしないと、何か言葉だけで終わってしまう気がします。

ご覧になられた方がおられると思ひますが、YouTube で、加西市の教育委員会の加西 STEAM 戦略を公開しておひます。それを私も見ました。そこではいろいろな取組みが紹介してありました。20 分ぐらいの動画です。物足りないと思つたのは、自然とかの取組みばかりの話なんですよね。技術教育とかテクノロジーの教育とか、そういったサイエンスの部分で、不思議に思つたことを、実際に子どもたちが皆で知恵を出し合つてつくっていく、いかだをつくるとか、あるいは EV、電気自動車の工場に行つてエンジンを見せてもらひます。それは素晴らしいと思ひますが、この STEAM の A の部分が私には伝わってこなかった。STEAM の A。この部分が正解のない問題とか、人間力を育むという部分になると思ふんですよね。

正解のない問題って何だろうって考えたら、大体昔から全て人間がやつておひることは、ローマの時代から正解がない。みんなそれで苦しんできた。現代の正解のない問題っていうと、AI で全てのことをかなりできるようになった幻想があります。今まで私達が時間をかけておひたことは AI が全てやってくれる部分があると思ひますが、AI では絶対に解決できない問題があります。例えば生命倫理の問題、DNA 操作。どういふ生命をつくるかとかあるいは環境問題とか、そういったことは、これは正義とか善とかそういうものが前提にならないと、幾らテクノロジーが発展しても答えられないです。その答えをつくつていかないと駄目だと思ふのです。今の生命倫理、環境問題は科学の発展とともに起きてきた問題です。だから、サイエンスは新しい問題を定義して起こしますけれど、でも解決はできないのです。

解決は人間の人文科学的なところで、何が善で何が正義で、何をしておひたらいいのかということ、これは今までの人間がやつてきた知恵の中から学ぶしかないと思ひます。

STEAM 教育の一番いいところは、この A が入つておひるところだと思ひておひます。STEAM は、元は STEM 教育ということで、オバマ政権の時代に、アメリカの国家戦略で理系教育っていうのに力を入れたと書いておひました。そこで、その後 A が入つたということですね。

A が入つてきたというのは画期的だと思ひます。リベラルアーツの A だと思ひます。YouTube の中では、その A は美術とかデザインという形で表現されておひましたので、私はそれだけではないと思つたんです。確かにそれも一部ですが、リベラルアーツですから、学芸というところで、人間の過去の知恵を総合的に学ぶ。それは何かの専門家、スペシャ

リストをつくっていくのではなくて、ゼネラリストをつくるという教育です。何かの技師であるとか技術者であるとかそういった専門家をつくる前の一個の人間をつくる教育が、リベラルアーツだと思うのです。

「これを加西市が中心になってやります」ということを言われております。この「はじめに」に2回もSTEAM教育が出てきます。リベラルアーツといったら、大学以上、高校以上の勉強というイメージが強いのですが、これを基礎教育の小中でやるっていうのはやり方を工夫しないといけないと思います。そこはすばらしいことですけど、自分の頭で考えて自分の言葉でしゃべれる子どもであるとか、そういった子どもを育てる方法を小中学校でどう取り入れていくかっていうことは、これは真剣に考えていかないといけない問題だと思います。

一つのSTEAM教育の狙いとしてはクリティカルな人間をつくる、批判ができる人間をつくるということだと思います。クリティカルな精神というのは、これは日本では難しいですね。加西市で人と違うことを言うと「変わっている」と言われますね。それから、「協調性がない」とかいろんなことを言われて、いわゆる同調圧力がかかるわけです。その変わっているやつが実は結構大事なことを言っていたりする。それから、変わっているだけじゃなかったりする。これも育てていかないと駄目だと思います。みんなと同じ意見にしたら楽ですけど、何も新しいものが出てこないです。クリティカルな精神を小中学校のときから育てる。「生意気な子どもができちゃうじゃないか」って皆さん思われるかもしれませんが、ちょっと生意気ぐらいのほうがいいですよ。

それを小学校、中学校でつくっていく、雰囲気育てる、そしてそれは先生方も大変だと思いますが、どうやって教えていくかっていうことを、委員会はあと1回で終わりますが、この後の残された課題ではないかと思っています。

市民全体で議論の場をつくって、そして理念をしっかりとさせて、そしてそれをどう教えていくかという方法も考えて、さらにそれに効果があるかどうか、フィードバックしながら、成果が必要ですから、そしてまた手づくりでつくっていく、それがあってこそ加西市は誇れる「教育都市」という言葉がありましたけど、加西独自の人間づくりができるんじゃないか。これは今後の課題ではないかと思っています。いかがでしょうか。

○会長

教育長お願いします。

○教育長

私が言いたいことを全部言ってくださったんで、そのとおりだと思っています。この答申ではそこまでSTEAMについて書くことができませんので、抽象的な言葉で書いておりましたが、STEAM教育というものはおっしゃるとおりです。

私が加西に戻って、最も強く感じているのはクリティックがないという、ある種の無念さといいますか、人間が生きる以上もっと自由にクリティックが欲しいと、本当にいろんな機会でも、思ってきたことでございます。

A委員がおっしゃるように、加西市の中において、常にクリティックな精神をもって物事

を見るということは、本当に子どもたちでも、すぐに生意気に見られたり、変わり者に見られたりしてしまう。でも、それをSTEAMで「そうじゃないんだよ」って、「みんな違ういろんな意見を言っていていい」っていうことは、少しずつやっていきたいと思っただけの教育委員会からの提案です。言いたいと思うことを、すばっとおっしゃってくださったので、そのように肝に銘じてSTEAM教育を進めていきたいと思っております。

別の話ですが、この間もSTEAM教育で読書感想文の書き方という講座をジャズシンガーの講師が来て講義してくれました。私は最初、「読書感想文を書くのに、何でSTEAMやねん」と、「何でもSTEAM入れたらいいと思っておるな」って思って、チェックも含めて聞きに行きました。大変おもしろかったです。それは先ほどA委員がおっしゃったように、自分の頭で考えて、自分の言葉でどう表現するか。そういう子をどうつくっていくかということ、そのジャズシンガーは、そこに参加している小学生たちに、まず自分の五感で物を捉えたらどうなるかっていうところから講座を始められました。読書感想文なんてどこにあるのってというような授業でした。最後は、もちろん五感で書いてみる読書感想文というところに行くわけですが、このように外からはなかなか見えにくいけれども、徐々に教育という面でみんな頑張っていて、教育センターもそういう研修会をどんどんやっていっておりますので、A委員がおっしゃるように市民全体で考えるSTEAM教育というものを、今後もう少し具体的に委員会なり勉強会なりをやっていけたら最高だと思っております。

○会長

このSTEAM教育は、この検討委員会からの話ではなくて、教育振興基本計画から出てきているものを、この新しい学校の検討の中で具体化していくことと思っておりますので、今後とも、現場や地域の方の協力を得ながら進める必要があると伺いながら聞いておりました。

この答申の文章の中で細かく書くことは難しいと思っておりますが、A委員がおっしゃっていただいたことは本当に大事なことだと思っておりますので、この答申を出した後、具体的に学校をつくる、学園構想をやるっていう中で、また深めていければいいと思っております。

まだ、ぜひという方がいらっしゃれば伺います。

○OC委員

もう物を言えるのは最後になると思っております。クリティカルな人づくりというところも含めて、思っていることが2つあります。一つは部活の件です。最初、この会議が始まったときに、なぜ統合するのかという大きな理由に、部活が中学校の先生方からすごく出ているということをお伺いしました。今日の神戸新聞の1面に掲載され、あのときも私が話をしたと思っておりますが、令和5年から部活は地域スポーツに動くということが国で決定していることでもあります。部活をしたい子ばかりではないと思っております。そこに選択がないということも気になっております。だから、統合中学校になったときの部活の在り方、地域スポーツへどう移行していくのかということ、大きな問題になっていくと思っておりますので、そこは丁寧に検討していただけたらということが一つのお願いです。

もう一つは制服の問題です。一つの自治体で同じ制服にできないのかという話を私はいろんなところで言っております。小野市では4中が同じ制服に踏み切りました。利点は経済的な問題もあります。各校で異なると単価がすごく上がり、そろえると1万円ほど安くなるという試算が小野市で出ています。私、もともと制服は要らないと思っています。クリティカルなところでいけば、究極的には制服は要らないと思います。それでも、「中学生らしく制服が要る」と保護者の皆さんが思われるのであれば、いいとは思いますが、例えば一つの学校でいじめに遭ったとか、ちょっと学校に通うのがしんどいという子が、制服が一緒だとフレキシブルに違う学校に動ける利点があります。「実際、そういうことを考えているよ」って私が言ったときに、すごく喜ばれた中学校の保護者の方がいらっしゃいました。もう遠いところへ住所を動かして自治体変わってというのは大変だし、でも「ちょっとしんどいんですよ、うちの子にこの集団は」といったとき、「動きたい」というときに、制服が違えば、すごい違和感があるということを知りまして、制服のことも実はすごく考えてほしい。

2中になるのでね。これを「A中学校、B中学校の所属感を強めるんですよ」みたいにするのか。「いやいや加西はみんな一緒ですよ。ただ便宜上、2中になっているんです」とするのか。そこはすごく大きな問題じゃないかなと思っています。

この2つのことは議事録に残しておいてください。よろしくお願いします。

○会長

部活と制服の問題ですね。また、統合中の具体的な、教育部長がおっしゃっていたような組織の中で、また検討されていくことと思います。既存の北条中の兼ね合いとかも、一緒に議論していただければと思います。制服だったら性の問題、ジェンダーの問題なんかも、男子の制服と女子の制服を一緒にするとか、これは一緒だったら兄弟姉妹であっても、使い回しが利くとか、いろんなメリットはあるでしょう。その辺も含めてね、また制服の議論の場で検討していただければと思います。ほかよろしいでしょうか。G委員お願いします。

○G委員

先日、PTAの役員の方から夏休みに奉仕作業について連絡をいただきました。子どもの数が減っているっていうことは、奉仕する保護者の数も減っている。学校の規模自体は縮小になっていないので、「作業する範囲がとて多くて1日ではなかなか回り切れていないというのが実情です」ということを連絡いただきました。実際に子どもの数も減ってきますので、奉仕作業の年に3回か4回ぐらいは、市の方からも応援で業者さんに入らせていただいていると聞いています。しかし、その部分だけでは足りてないというところも聞いておまして、教育委員会、市の方々、その辺はPTAの声を吸い上げていただいて、検討していただければと思っています。

中学校のPTAが今度一つに統廃合することになれば、新たなPTAの活動を模索していかないといけないと思っています。皆さん、美バースデーという作業をしていただいています。実情、今コロナで子どもは参加させていないとか、そういう部分で、負担も出てきています。美バースデーの在り方について、地域の人にも、PTAだけに任せるのでは

なく、教育委員会も少し間に入っていて、その辺も少し掘り下げていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。K 委員お願いします。

○K 委員

みんなの意見が入っている答申で、反対意見もきちんと書かれているので、会議の流れがすごく分かるのでとてもいいと私は思いました。そして、ほかの委員の方も言われましたが、統合するに当たっての今後の意見は、いろんな場所でいろんな人の意見を聞いてほしいと思いました。会議に出れる人とか、意見を言える人っていうのは、目的が違うところがあると思うので、今後の地域の協議会などでも、少数の人の意見とか、その中で障害を持っている子とか、また家族のいろんな立場の人の意見を聞いてもえたらと思いました。

○会長

L 委員お願いします。

○L 委員

新しい言葉をたくさん教えていただき、またいろんな考え方を本当に学びきっかけ、そしてまた地域におりながら地域を全く知っていなかったといえますか、若い保護者さんの考え方や、各委員のいろいろな考え方を教えていただき、委員会に入らせていただいて、本当に正解だったと思います。また、教育部長からも「これからは経済的な面と分けて考える」という、その言葉はもうちょっと早めに欲しかったなと思いました。

一番初めは「本当に通学のことから何もかも全てのことを、この会議の中で私たちが答えを出すのか、そんなことはあり得ないであろう」と私は思っておりました。

このように会議が進められておりますが、地域の人たちは全然関心持っていない方がたくさんいらっしゃいます。やはり皆さん方で考えて、どのように関わっていくか。協力し合って、在り方を考えていかないといけないと、本当にいい勉強をさせていただきました。

今の教育は学校の先生方が今一番大変で、その中の何もかもを先生方から頂くことだと思っておりましたが、またそれとは違う私たちの想像もしない意見を言っていて、本当にすばらしい学校の構想になればと、このように答申も形にして頂きましたので、何か胸の中がほっとしております。

○会長

答申もこういう形で何とかまとまりそうなところまで来ました。本当に貴重な建設的な意見も頂きましたので、必要最小限の形になると思いますけれども、再度加筆修正させていただきます。今日出たご意見はほぼ盛り込めるということですので、あとは、事務局と会長に一任という形で最後つくらせていただくことでよろしいでしょうか。

では、そのような形にさせていただければと思います。ありがとうございました。では、

本日の委員会の日程はここまでです。

3. その他

○事務局（人口増政策課）

この検討委員会が終わってから、市としてどういう方向性で進めていくかについてのフォローといいますが、今後の流れについて簡単に説明させていただきたいと思います。

次回の会で答申を提出いただけるということで、その後の動きとしましては、先ほどK委員からもご意見がありました。この問題については一部の地域だけではなくて市全体として検討していく内容となっておりますので、できるだけたくさんの市民の方々に議論させていただきたいと思っております。

今回アンケートを取らせていただきましたが、今度はワークショップ形式で市民の方々にご意見を頂きたいと考えております。来月の広報及び区長発送等でご案内させていただき予定しております。10月、11月にかけて合計3回のワークショップを行う予定としております。1回当たり100名程度を募集し、平日の昼、平日の夜、土曜日の午前中ということで、それぞれ参加しやすい時間帯に出席いただけるような形でご案内をしていきたいと思っております。ワークショップの内容につきましては、この検討委員会が出された答申の説明をもとに、今後どういった学校をつくっていくかということも踏まえまして、皆様からご意見を頂きたいと思っております。

最終、頂いたご意見等を取りまとめまして、市としてどういう方向性で進めていくかというところを決定させていただきたいと考えております。

4. 閉会

○教育部長

議論をしていただくのは、今回が最後になります。昨年10月に第1回目を開催しました。年度が変わり、何人かの委員の方は交代となりましたが、本当に熱心に議論いただきましてありがとうございます。今後の動きについては、これまでのこの会議の中、あるいは先ほどの人口増政策課の説明のように、この秋から「100人委員会」という名称で、広く多くの市民とこの最終的に仕上がった答申を議論する場が設けられます。

事務局としましては、この答申に基づき、最終的には首長部局が学校の設置者ということになるのですが、教育委員会がそこに関わらないという意味ではございません。法律上の建てつけという意味で、ご理解ください。今後、我々も積極的に関わるのは当然ですが、そろそろ令和5年度予算の話が始まります。この答申を進めていく中で、そこをしっかりと進めていくのが我々の責任と考えていますので、答申の議論を深めながらも、並行して来年度予算への反映という部分もしっかりと担っていきたいと思っております。

約1年間関わってくださった皆さんでございまして、今後の動きにもしっかりと注目をさせていただき、ご指導やいろんな助言なども頂ければ幸いです。これからの推移も見守っていただければと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

今後の答申に向けて最後をまとめていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

○教育長

ありがとうございます。もう1回ございますけれども、大変皆さんが積極的に白熱した議論をしていただきまして、真面目に加西市の学校教育をどうするのかってことをある種の希望を持ってまとめることができたということは、大変うれしく思っております。最初は「まとまるかどうか、どうだろう」と思いましたが、やっぱり意見と意見を交わす、ディベートするということは、大変大事なことだと思えました。本当に皆さんありがとうございました。あと1回、どうぞよろしく願いをいたします。